

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年二月度 入選句（投稿総数千八百四十六句・小中学投句数千二百九十一句）

特選

選者 相馬 みさ子

ばあちゃんの手あみのマフラーぽつかぽか 大垣市 糺矢 みう(小二)

ふんわりとした毛糸のマフラー。とつてもあつたかそうですね。しかもおばあさんの愛情こもった手あみのマフラーだからこそ、いっそうあつたかくて嬉しいことでしょう。

そんな想いが「ぽつかぽか」によく表現され、作者の笑顔までが浮かびます。読み手までもあつたかい気持ちになる一句です。

ゆきだるまいちにちだけのおともだち 大垣市 稗田 伊生吏(小二)

雪だるまのことを「いちにちだけのおともだち」とする表現に愛情が感じられ、作者の気持ちがよく伝わってきます。

確かに一日たてば、雪だるまは消えてしまうでしょう。でも、その一日雪だるまと過した楽しいひと時。作者にとつて雪だるまは、おともだちになったのですね。とつてもかわいらしい作品です。

卒業の足音きこえる三学期 大垣市 森嶋 諒晟(小六)

作者は六年生。もうすぐ卒業ですね。卒業を間近にひかえた作者の心境が「卒業の足音きこえる」によく表現されています。

簡潔にまとめた一句にいろいろ作者の気持ちが想像されます。

誰もが卒業という事を一度は経験しますが、作者の「足音きこえる」という言葉に当時の自分をかさね、共感してよみました。中学生になっても俳句をつくって下さいね。

秀逸

ひなまつりきょうはわたしがしゅじんこう 大垣市 川越 なつみ(小五)

たんぽぽのわた毛がとんでく一人立ち 大垣市 木村 ひな胡(小五)

ぼくの名を大書きしたよ凧あがれ 大垣市 川合 凌矢(小五)

友達のきずなをつなぐクローバー 大垣市 佐々木 美愛(小五)

かきわけてすいせんのはなでてきたよ 大垣市 近藤 日和(小二)

ザクザクと雪ふむ音ではずむぼく 大垣市 廣瀬 涼雅(小二)

白い朝そつと一輪紅椿 大垣市 増井 陽向(小四)

校庭に手ぶくろぼつりかた手だけ 大垣市 川瀬 藤矢(小四)

卒業は別れじゃないぞ出発だ 大垣市 安田 篤司(小六)

バレンタイン勉強さぼってチョコ作り 大垣市 浜崎 莉緒(小六)

入選

冬の朝ガラスになった水たまり 大垣市 野田 康成(小三)
ひなあられ色とりどりの花みたい 大垣市 佐々木 みあい(小五)
大垣じようはいくを作って一休み 大垣市 鈴木 佑奈(小三)
えほうまきしずかにたべてねがいごと 大垣市 真田 すみれ(小三)
初もうで人におされて願回事 大垣市 伊藤 暖乃(小五)
おもちはねぷくぷくふうとふくれてる 大垣市 さな田 しほ(小二)
たいようがまぶしいあさのゆきげしき 大垣市 川瀬 雄一郎(小二)
節分で母が鬼役ちよいこわい 大垣市 傍 島 倫(小二)
ふゆのほしせかいのだれかもみてるかな 大垣市 関谷 泉吹(小二)
春のかぜせんたくものをゆらしてく 大垣市 伊藤 将輝(小二)

入選

ふゆのなべやさいがおんせん入ってる 大垣市 酒本 晃輔(小二)
バレンタイン友チョコ作ってプレゼント 大垣市 服部 紗枝(小三)
ふきのとう土の中からこんにちは 大垣市 いしづか しゅうが(小三)
豆まきは家ぞくそろって福をよぶ 大垣市 日比 終斗(小三)
鳥帰るいつもの場所にちゃんと来る 大垣市 吉 田 響(小四)
土筆たちむねはりピシツと整列だ 大垣市 伊藤 誠章(小四)
ローバイはほんのりあまいかおりする 大垣市 久保 志騎(小四)
春風にのって聞こえる合唱が 大垣市 近藤 芹香(小六)
香りだすあたり一面梅の花 大垣市 白木 那知(小六)
シャボン玉私の願い未来へと 大垣市 安田 朱里(小六)

選者吟

空洞の老幹になほ梅匂ふ

相馬 みさ子